

国土形成計画法第9条に基づく
近畿圏広域地方計画

関西広域地方計画

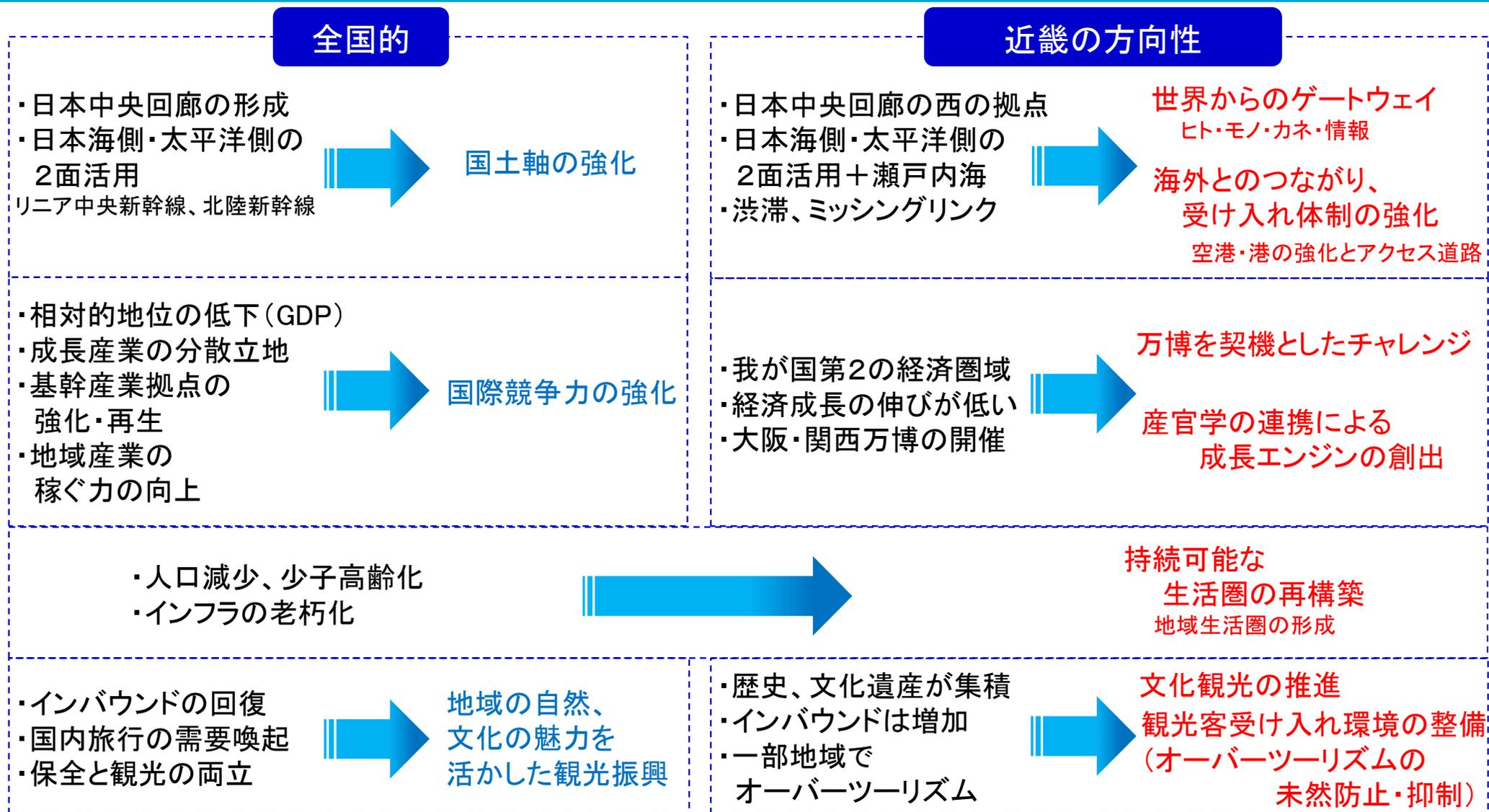
キーコンセプト（案）

これまでのキーコンセプト（基本目標）

これまでの計画 キーコンセプト(基本目標)一覧

	全国総合 開発計画 (一全総)	新全国総合 開発計画 (新全総)	第三次全国総合 開発計画 (三全総)	第四次全国総合 開発計画 (四全総)	21世紀の 国土の グランドデザイン	国土形成計画 (全国計画)	第二次 国土形成計画 (全国計画)	第三次 国土形成計画 (全国計画)
閣議決定	昭和37年10月5日 (1962年)	昭和44年5月30日 (1969年)	昭和52年11月4日 (1977年)	昭和62年6月30日 (1987年)	平成10年3月31日 (1998年)	平成20年7月4日 (2008年)	平成27年8月14日 (2015年)	令和5年7月28日 (2023年)
基本目標	地域間の 均衡ある発展	豊かな環境の 創造	人間居住の 総合的環境の 整備	多極分散型国土 の構築	多軸型国土構造 形成の基礎づくり	多様な広域ブロックが自立的に 発展する国土を構築/美しく暮 らしやすい国土の形成	対流促進型国土の形成	新時代に地域力をつなぐ国土 ～列島を支える新たな地域 マネジメントの構築～
開発 方式等	拠点開発方式 目標達成のため工業 分散を図ることが必要 であり、東京等の既成 大集積と関連させつつ 開発拠点を配置し、交 通通信施設によりこれ を有機的に連絡させ相 互に影響させると同時 に、周辺地域の特性を 生かしながら連鎖反応 的に開発をすすめ、地 域間の均衡ある発展 を実現する	大規模開発 プロジェクト構想 新幹線、高速道路等 のネットワークを整備 し、大規模プロジェクト を推進することにより、 国土利用の偏在を是 正し、過密過疎、地域 格差を解消する	定住構想 大都市への人口と産 業の集中を抑制する 一方、地方を振興し、 過密過疎問題に対処 しながら、全国土の利 用の均衡を図りつつ人 間居住の総合的環境 の形成を図る	交流ネットワーク 構想 多極分散型国土を構 築するため、①地域の 特性を生かしつつ、創 意と工夫により地域整 備を推進、②基幹的交 通、情報・通信体系の 整備を国自らあるいは 国の先導的な指針に 基づき全国にわたって 推進、③多様な交流の 機会を国、地方、民間 諸団体の連携により形 成	参加と連携 ～多様な主体の参加 と地域連携による国土 づくり～ (4つの戦略) 1 多自然居住地域(小 都市、農山漁村、中山 間地域等)の創造 2 大都市のリノベー ション(大都市空間の 修復、更新、有効活 用) 3 地域連携軸(軸状に 連なる地域連携のま とまり)の展開 4 広域国際交流圏(世 界的な交流機能を有 する圏域の設定)	(5つの戦略的目標) 1 東アジアとの交流・連携 2 持続可能な地域の形成 3 災害に強いしなやかな 国土の形成 4 美しい国土の管理と継承 5 「新たな公」を基軸とする地 域づくり	重層のかつ強靱な 「コンパクト+ ネットワーク」	シームレスな拠点連結型国土 1.デジタルとリアルが融合した地域生 活圏の形成 2.持続可能な産業への構造転換 3.グリーン国土の創造 4.人口減少下の国土利用・管理 5.地域の安全・安心、暮らしや経済を 支える国土基盤の高質化 6.地域を支える人材の確保・育成
						関西広域地方計画	第二次 関西広域地方計画	新たな 関西広域地方計画
大臣決定						平成21年8月4日 (2009年)	平成28年3月29日 (2016年)	令和7年度
基本目標						知と文化を誇り 力強く躍動する関西	歴史とイノベーションに よるアジアとの対流拠点	
開発 方式等						1.歴史・文化に誇りを持って本 物を産み育む圏域 2.多様な価値が集積する日本 のもう一つの中心圏域 3.アジアを先導する世界に冠 たる創造・交流圏域 4.人と自然が共生する持続可 能な世界的環境先進圏域 5.都市と自然の魅力を日常的 に享受できる圏域 6.人々が自律して快適で豊か に暮らせる高福祉圏域 7.暮らし・産業を守る災害に強 い安全・安心圏域	1.アジアのゲートウェイを担 い、我が国の成長エンジンと なる圏域 2.日本の歴史・伝統文化が集 積し、世界を魅了し続ける圏 域 3.快適で豊かに生き生きと暮 らせる圏域 4.暮らし・産業を守る災害に強 い安全・安心圏域 5.人と自然が共生する持続可 能な世界的環境先進圏域	1.挑戦し、成長する関西 ～日本中 央回廊の西の拠点として我が国の成 長を牽引する関西～ 2.豊かに誇り高く暮らせる関西 ～ど こでも豊かに暮らせる地域生活圏の 形成を目指す関西～ 3.災害に屈しない強靱な関西 ～巨大 災害リスクに対して持続可能な国土・ 社会を目指す関西～ 4.人と自然が共生する持続可能な関 西 ～カーボンニュートラル・SDGsを 実現する関西～ 5.人々を魅了し続ける関西 ～歴史・ 伝統・文化が集積し、多様な文化・自 然の魅力がいっぱい関西～

【新たな関西広域地方計画】 今回の計画のポイント



成長エンジンによる牽引
全ての人々が安心できる豊かな社会の実現

若者の目を引くキャッチーなコンセプト + 副題で具体的に目指す姿

(イメージ)

そのさきのニッポンを、関西から。

～誇り高く人々を魅了し、成長する関西～

関西広域地方計画

キーコンセプト案

方向性A：キーワードを列挙したもの（従来のかたち）

方向性B：英文・和文をセットにしたもの

（新しさ・直観的に感じるかたち）

方向性C：未来志向なもの（未来・将来を意識したかたち）

A-1

ひと、歴史文化、世界をつなぐ、
イノベーションフロンティア

A-2

歴史と創造

飛躍するグローバルゲート

B-1

KX

Kansai Transformation

～まじわり、つながる、変革する関西～

C-1

歴史ある、新しさ

C-2

その先のニッポンを、関西から。

関西の将来像とその目標・戦略 (まとめ)

【将来像1】 挑戦し、成長する関西

- 現状 強み・課題 : 我が国第二の経済圏、阪神港、関西国際・大阪国際・神戸空港、道路網・鉄道網充実した交通基盤を有す。最先端の研究開発機関が集積
大阪・関西万博のレガシーの継承・発展
- 目指す姿・将来像 : 日本中央回廊の西の拠点、国土の均衡ある発展や地域経済の活性化を実現
イノベーションを創出し続ける圏域
- 広域連携プロジェクト : 海峡横断プロジェクト、国際交流拠点の競争力強化、ポスト万博シティの推進

【将来像2】 豊かに誇り高く暮らせる関西

- 現状 強み・課題 : 美しい島並み景観を誇る瀬戸内海など、豊かな自然に恵まれている
多核型の圏域構造となっており、各都市がプライドを持って個性豊かな都市を構築
- 目指す姿・将来像 : 関西のどこに住んでいても快適で豊かに暮らせる、心身ともに健康的に充実した時間を過ごすことができる圏域
- 広域連携プロジェクト : 都市圏郊外部の再生
地域生活圏(生活に不可欠な稼ぐ・買物・医療・福祉・介護・教育・移動等)の形成

【将来像3】 災害に屈しない強靱な関西

- 現状 強み・課題 : 南海トラフ地震の発生が危惧
大阪平野の多くは海拔ゼロメートル地帯
新幹線の運休による影響大(三大都市圏間)
- 目指す姿・将来像 : 人々の生命・財産を守り、災害時にも社会経済活動を持続、バックアップを担い得る圏域
- 広域連携プロジェクト : 地震・津波対策、洪水・内水・高潮・土砂災害対策
バックアップ機能を関西で構築、平時から首都圏とのデュアルオペレーション体制の構築

【将来像4】 人と自然が共生する持続可能な関西

- 現状 強み・課題 : 日本の原風景が残るなど自然が多数存在
カーボンニュートラルの実現
- 目指す姿・将来像 : グリーン国土の創造に資する圏域
- 広域連携プロジェクト : グリーンインフラの取組を分野横断・官民連携により推進、都市の緑地は自然・田園環境再生を取り組む
関西企業の水素関連産業への参入促進
地熱・水力・バイオマス・太陽光・風力等の再エネの最大限導入促進・活用を図る

【将来像5】 人々を魅了し続ける関西

- 現状 強み・課題 : 日本の歴史と文化の中心として都が置かれた歴史
歴史・文化資産が集積
多くの外国人観光客を引きつけており、今後も更に増えていく
- 目指す姿・将来像 : 世界の人々を魅了し続ける圏域、地域の魅力を存分に味わうことができる圏域
- 広域連携プロジェクト : 文化観光の推進、食文化の普及
多彩な景観を発掘しその魅力を発信等
オーバーツーリズムの未然防止・抑制



(副題) 誇り高く人々を魅了し、成長する関西

A-1

国土形成計画法第9条に基づく
近畿圏広域地方計画

関西広域地方計画

ひと、歴史文化、世界をつなぐ、
イノベーションフロンティア
～ 誇り高く人々を魅了し、成長する関西 ～

令和●年●月

近畿圏広域地方計画協議会

A-2

国土形成計画法第9条に基づく
近畿圏広域地方計画

関西広域地方計画

歴史と創造
飛躍するグローバルゲート
～ 誇り高く人々を魅了し、成長する関西 ～

令和●年●月

近畿圏広域地方計画協議会

B-1

国土形成計画法第9条に基づく
近畿圏広域地方計画

関西広域地方計画

KX
～ まじわり、つながる、変革する関西 ～

令和●年●月

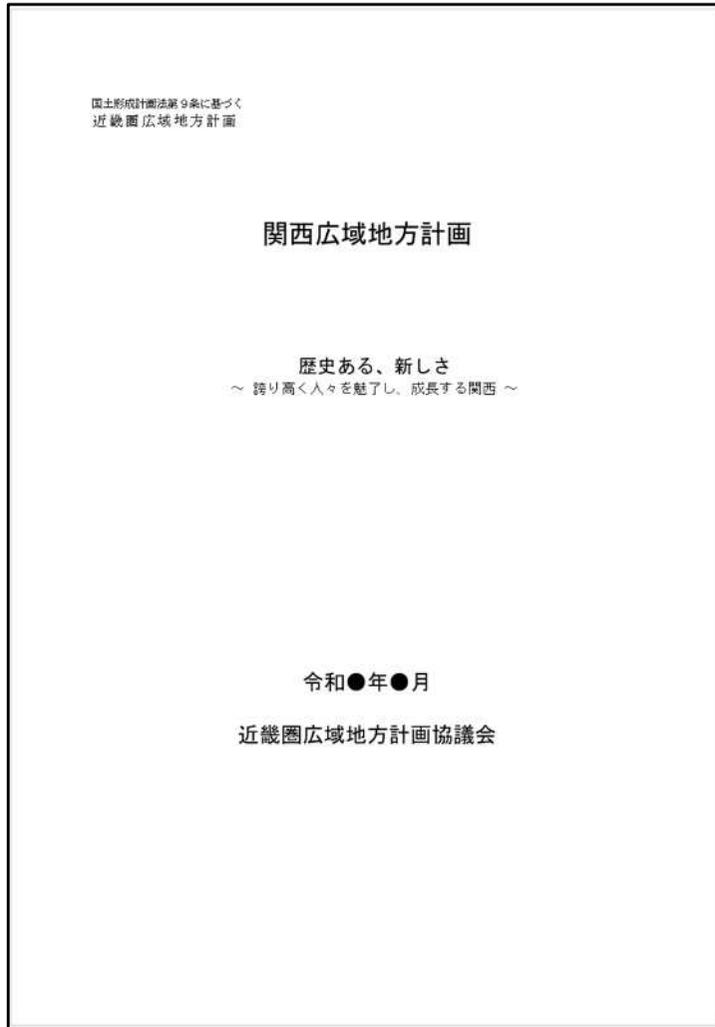
近畿圏広域地方計画協議会

住むほどに、心地よく。訪れるたびに、心魅せられる。
豊かな歴史文化や自然に彩られながら、
イノベーションの拠点としても飛躍するために。
アジアをはじめ世界の架け橋となり、
この国の成長エンジンとして活気あふれる関西を目指します。

世界を魅了する、悠久の歴史や文化。
未来を創造する、イノベーションの数々。
この国の「西の玄関口」として、
それぞれの都市が多彩な個性を発揮しながら、
さらなる関西の魅力を発信し続けます。

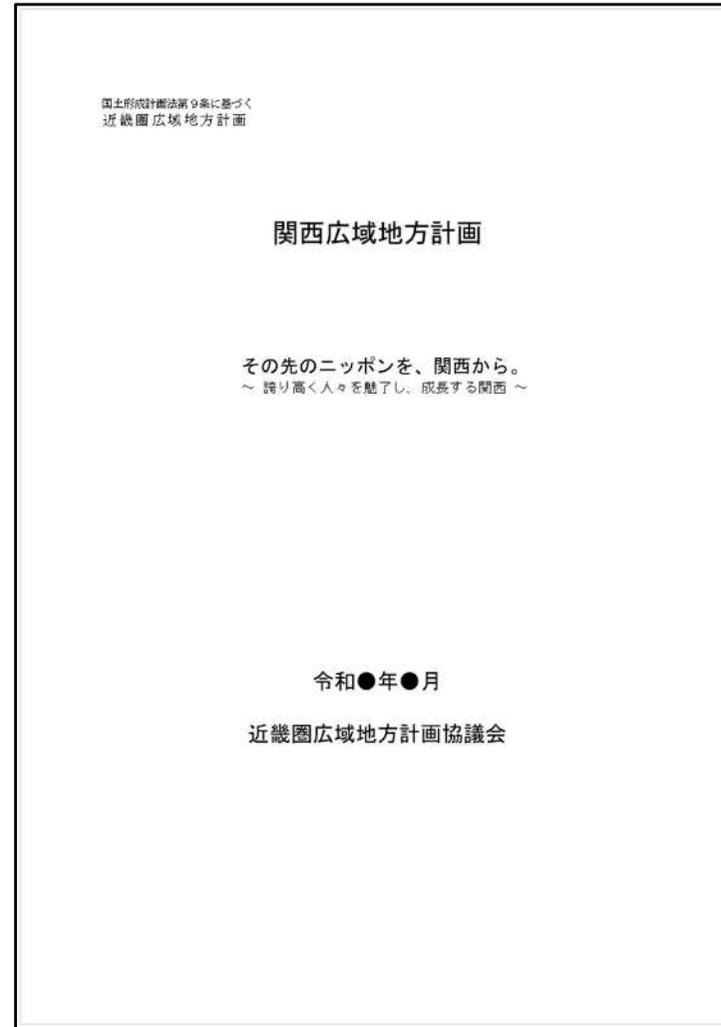
時代の変革期を見据え、高次元での飛躍を目指して。
アジアをはじめ、世界との架け橋となり、
あらゆるイノベーションを生み出し続ける。
この国の成長エンジンとして、
関西はさらなる飛躍を遂げていきます。

C-1



古くから歴史と文化に彩られてきた関西。
変化し続ける時代であっても、
揺るぎないこの礎のもと、
新たな歴史と文化の創造を目指し、
さらなる未来へと羽ばたいていきます。

C-2



世界を魅了する、歴史や文化。
未来を創造する、イノベーションの数々。
アジアをはじめ、世界との架け橋となり、
あらゆるイノベーションを生み出し、
次のニッポンを牽引する、新たな関西をめざしていきます。

参考【新たな関西広域地方計画】今回の計画のポイント(施策)

【海峡横断プロジェクトの取組】

西日本広域圏の地域活力の創出、ネットワークの多重性・代替性といったリダンダンシーの確保等の観点から、近畿圏四環状道路と日本海・西日本・太平洋新国土軸による交流・連携を強化し、**海峡部などを連絡するプロジェクトについて他圏域と連携しながら長期的視点から取り組む。**
海峡間アクセスのための新モーダルシステムなど、新たな価値創出につながるこれまでの発想を超えた機能の導入について検討する。

【総合交通体系の構築(交通・物流ネットワークの強靱化)】

(高規格道路ネットワークの高質化)

移動時間距離の短縮、ネットワークの多重性・代替性といったリダンダンシーの確保の観点から、**ミッシングリンクの解消、暫定2車線区間の4車線化等**、機能向上の加速化を図る。

(幹線鉄道ネットワークの高質化)

リニア中央新幹線、北陸新幹線の1日も早い大阪までの全線開業に向けて、国、地方公共団体等において必要な連携・協力を行う。
また、近年の**豪雪やゲリラ豪雨等の巨大災害に強い都市間輸送手段**であり、災害時には代替輸送ルートとして機能する北陸新幹線、リニア中央新幹線等の幹線鉄道ネットワークの整備を進める。

(海上輸送ネットワークの高質化)

海運へのモーダルシフトを推進する。そのため、拠点港湾をターミナルとして、太平洋、瀬戸内海、日本海等の産業集積地を相互に連結する**全国海上輸送網の機能強化**を図る。さらに、**船舶の大型化などに対応した港湾整備**を進めるとともに、荷役効率化のための情報通信技術や自動技術を活用した**次世代高規格ユニットロードターミナルの形成**を図る。

(航空輸送ネットワークの高質化)

国際拠点空港の国際競争力を強化するため、**国際航空ネットワークを充実**させ、国内外の需要を広く取り込む。関西3空港における年間発着容量50万回の早期実現を目指す。また、**空港アクセス利便性の向上に資する高規格道路及び鉄道等の整備を推進**する。

【ポスト万博】

万博のレガシーを継承する先端的な健康・医療(ライフサイエンス)分野等の**イノベーションの促進**、デジタル技術等を活用した**新たなモビリティの導入**などを図る。また、万博で得られた成果を「けいはんな学研都市」などで実装する。

【消滅都市対策(地域生活圏の形成)】

持続可能なまちづくり・地域づくりを支えるため、遠隔医療や自動運転等の実装により**デジタル技術を活用**し、行政界などに捕らわれずに周辺地域との連携を進めるとともに、官民の関係者が協働する「地域生活圏」の形成・活用により、**生活するために必要不可欠な官民サービスを始めとした諸機能(稼ぐ・買物・医療・福祉・介護・教育・移動等)を確保**する。

【文化観光の推進、伝統的な芸能文化や食文化の普及推進】

古来より日本の歴史と文化の中心として都が置かれた歴史があり、我が国を代表する**歴史・文化資産が集積**。
地域文化の保存、継承、振興と地域の活性化の好循環を創出するため、**文化の理解を深めることを目的とする観光(文化観光)を推進**する。地域での文化観光を推進するため、文化観光拠点・地域の整備の促進を図る。また、伝統的な食文化などの普及などを目的として、国内外における和食の普及及び拡大に係る取組や、地域固有の多様な食文化を次世代に継承する取組を推進する。

【観光客の受け入れ環境整備(オーバーツーリズムの未然防止・抑制)】

関西を訪問した外国人の**旅行消費額は約1.1兆円市場**となっている。また、訪日外国人数は、コロナ禍後、**更に増加することが見込まれる**。
観光客が集中する一部の地域や時間帯等によっては、公共交通機関の混雑や交通渋滞、写真撮影のための私有地への立入り、ごみの投棄といった過度の混雑やマナー違反による**地域住民の生活への影響、旅行者の満足度の低下への懸念**も生じており、適切な対処が必要となっている。
これらの課題に対応するため、公共交通利用の分散化、手荷物対策、ごみ対策、マナー啓発等や、人流や車両の移動などに関するビックデータなど、デジタル技術の活用を通じた観光客への情報提供などにより、**観光地における過度な混雑などの防止・旅行の質の向上**を図る。